



# キックオフ

11月20日発行  
第18号  
発行責任者  
寺田 安広

## 国際理解学習(JICA海外協力隊)

11月7日の土曜授業は「国際理解学習」でした。

1限目は、JICA(国際協力機構)事務局の

柳 博美さんから、世界の情勢やJICAの活動について学びました。「世界で6秒に1人が5歳になる前に亡くなっている」という事実に衝撃を受けましたね。

2限目は各クラスに分かれて、JICA海外協力隊に参加し、外国での生活やボランティア活動を体験された方に来ていただいて、体験談などを話していただきました。



|    | 名前        | 派遣国                  |
|----|-----------|----------------------|
| 1組 | 柳瀬 友梨香 さん | ベトナム                 |
| 2組 | 相川 香菜 さん  | ガーナ                  |
| 3組 | 岡 優樹 さん   | セントビンセントおよびグレナディーン諸島 |
| 4組 | 長渡 大介 さん  | フィジー                 |
| 5組 | 佐伯 侑梨加 さん | モルディブ                |
| 6組 | 畠山 恒 さん   | バングラデシュ              |

### 国際理解学習の感想

●ご飯を食べたり、水を飲んだりできるのは当たり前だと思っていたけど、僕たちが当たり前だと思っていることをできなかつたりしている事実を知って、ご飯や水などがあることを感謝していきたいと思います。世界には学校に行きたくても行けない、勉強したくてもできない子がいっぱいいるのに、学校に行きたくないと言っている自分がはずかしくなりました。気持ちを改めて、世界の学校にいけない子の分も、一生懸命勉強したいなと思いました。

(3組 男子)

● バングラデシュに行った畠山先生の話を聞いて、すごく納得したものがいくつもありました。なかでも、物乞いをしてくる子どもにお金をあげるかあげないかの選択の方法で、子どもたちと話をして自分なりに納得した理由があるならあげるというもので、最初から決めるのではなく自分の考えを状況に応じてできることがすごいなと思いました。またもう一つは、言葉がうまく通じないという壁がある中で、その壁を絡めた糸という考え方をしていることです。壁はこわすしかないけど、糸ならいろいろな方向からほどけばいい、つまりいろいろな解決方法があるということを学びました。

（6組 男子）



● 「モルディブ」という国名を聞いて、私は聞いたことない国で、ますます興味を持ちました。モルディブでは「ディベヒ語」を使って話したりするそうで、ディベヒ語は右から読むので日本とは違うことを知りました。それと、モルディブでは「運動会」や「オリンピック」を生徒たちが知らなかったということに、私はおどろきました。オリンピックはテレビであまり放送されないみたいで、何だかもったいないなあと思いました。

※ディベヒ語で名前を書いてもらいました👉

（5組 女子）

● 私は海外や遠い場所に行ったことがなかったし、授業などでしか他の国のことを探る機会がなかったので、正直、他人事というか、他の国の問題なんて自分には関係ないと思っていました。ですが今日の話を聞いて、生活習慣などの大きな違いや、環境などの問題を知ってびっくりしました。このことにもびっくりしたのですが、人の役に立ちたいと思って他の国に住み、現地の人と暮らすということはすごく勇気のいることだし、自分にはとても出来ることではないと思いました。日本も戦後などで支援を受けていたのを聞くと、他国とのつながりは大事なのだと思います。飢えや病気などで6秒に1人が亡くなっている現状を変えられたら・・・と思いました。自分にはまだ何ができるかはわかりませんが、人々や私たちが暮らしやすい世界になるために自分も協力していきたいと感じました。人のために何かをするということはかっこいいと思いました。自分も人の役に立つ仕事をにつきたいと思いました。

（4組 女子）



**期末テスト1週間前です。準備を進めましょう!**